

一 拷問論之二

一 眞爲政者ノ説

一 西學一斑

一 質疑一則

明六雜誌

第十號

定價四錢



頃日吾儕盍簪シ或ハ事理ヲ論シ或ハ
異聞ヲ談シ一ハ以テ學業ヲ研磨シ一
ハ以テ精神ヲ爽快ニス其談論筆記ス
ル所積テ冊ヲ成スニ及ヒ之ヲ鏤行シ
以テ同好ノ士ニ頒ツ瑣々タル小冊ナ
リト雖凡邦人ノ爲ニ智識ヲ開クノ一
助ト爲ラハ幸甚

明治甲戌二月

明六同社識

明六社雜誌拾號明治七年六月刊行

○拷問論ノ二

津田眞道

歐米獨立ノ各國和親通商ノ交際上ニ於テ互ニ盟約章程ヲ締立セザル
ハナシ彼此ノ權利同一ニシテ優劣アルコトナシ彼國ノ民此國ニ來レバ
必ラズ此國ノ法律以テ之ヲ保護シ政令以テ之ヲ撫治スルコト固ヨリ論
ヲ埃タズ然ルニ我帝國日本ノ歐米諸國ト條約ヲ締立スルヤ外國民ノ
我國內ニ於テ法ヲ犯スニ於テ我國ノ法律以テ之ヲ罰スベカラズ乃彼
我同權ノ條約ニ非ズ到底我國體ヲ虧損スル所ナシト謂フベカラズ然
リ而シテ今遽ニ之ヲ改正スベカラザル所以奈何曰ク彼此ノ刑律同シ
カラズ殊ニ治刑ノ方法迥ニ異ナレバナリ
彼此ノ刑律相同シカラズト雖亦大同小異ニシテ氷炭懸隔スル者ニア
ラズ但彼民ハ自由ヲ得テ我民ハ束縛ヲ免レザルノミ此事獨國法政事
上ニ於テ然ルノミナラズ人民日用彝倫ノ際ニ於テ亦然リトス譬ハ我

ニ於テ子孫祖父母父母ヲ毆ツ斬改定律例懲役十年子孫ヲ故殺ス徒彼
ニ於テハ甲徒若シクハ禁錮ニシテ乙死ナルノ類ナリ故ニ此等ノ事ニ
於テ小シク折衷ヲ加フル時ハ彼此ノ刑律畧相同シキ者ト爲ルベシ
治刑法ニ至リテ彼我迥ニ異ナリ例ヘバ彼ニ於テハ縱令罪惡ヲ犯ス者
アルモ其証跡ヲ得ザレバ治刑官吏之ヲ捕縛スルヲ得ズ我ニ於テハ
縱令未ダ其証左ヲ得ザルモ檢官視テ疑シトスル者ハ直ニ之ヲ捕縛ス
ルヲ得ベシ又彼ニ於テハ縱令惡事ノ証左アルモ其事刑律上ニ明記
シテ罪惡トセザレバ罪ニ處スベカラズ我ニ於テハ縱令刑律ニ明記セ
ザルモ其事タル不應爲ノ事ナレハ直ニ之ヲ罰スベシ又彼ニ於テハ概
スルニ所謂誓士(ヂューリー)アリ民中ヨリ選舉セラレテ審理ニ參ス而シ
テ誓士刑律ニ拘ハルヲナク平心公正ニ判定シテ其人罰スベシト謂ハ
ザレバ法官刑律ヲ按シテ之ヲ罰スベカラズ我ニ於テハ未曾テ誓士ノ
設アルヲナシ又彼ニ於テハ証左明確罪狀疑フベカラザルニ於テ之ヲ

刑典ニ處シ強テ罪人ノ口供ニ拘々タラザルナリ是彼ニ於テ絶テ拷問
ヲ要セザル所以ナリ我ニ於テハ縱令罪証十分ニ明確ナルモ罪人ノ口
供ニアラザレバ決放スベカラザルヲ以テ通法トス是我ニ於テ拷問ノ
止ムベカラザル所以ナリ其弊ヤ縱令他ニ確証ナキモ拷問ヲ用ヒテ強
テ首服セシメ之ヲ罪ニ致スニ至ル其害ヤ遂ニ無辜ノ人ヲ冤罪ニ陷ル
ニ至ル

夫レ罪人ハ概スルニ惡人ナリ惡人ノ惡ヲ掩ヒ刑典ヲ遁レント欲ス是
其常情ナリ故ニ口供實ヲ得ント欲ス亦甚難カラズヤ縱令罪人ナリト
雖一旦悔悟自首スレバ其罪ヲ減免ス蓋シ萬國ノ通法ナリ故ニ罪人推
問ニ因テ實ヲ供シ既ニ悔悟スル所アレバ亦其罪ヲ減免スルモ理ニ於
テ不可ナル所ナシ故ニ禳祓懺悔善ニ歸スル者ヲ宥免スルハ各國ノ神
道佛乘ニ於テ取ル所ナリ然レモ其之ヲ國法ニ推及シ難キハ論ヲ俟タ
ズ然リト雖今惡人ニ責ルニ善人ノ心術ヲ以テシ之ヲシテ強テ首供セ

シメテ以テ之ニ刑戮ヲ加ヘント欲ス抑亦何ノ義ヅ是雪山以西ノ人種
ノ雪山以東ノ法律ニ服スルヲ肯セザル所以ナリ

罪惡既ニ証明ナレバ之ニ刑ヲ加ヘテ可ナリ彼惡人死シテ黃泉ニ到リ
或ハ地獄ニ墮ツ惡人ノ首供スルヲ要セズ是教法上臆想ノ事ニ屬スト
雖今之ヲ治刑條例中ニ採取センモ亦不可ナリトセズ况ンヤ歐米各國
ノ通法ニ於テチヤ

証左ニ據リテ曲直ヲ判スルハ民法裁判ノ通法ニシテ我帝國日本ノ聽
訟舊法モ歐米ノ新法ト大ニ逕庭アルヲナシ抑原被告人各其非ヲ掩ヒ
其理ヲ陳ス加フルニ代言人之ヲ脩飾ス只其言ヲ信セハ何レカ曲何レ
カ直聽ク者豈惑ハザラシヤ証左ニ據ルニ非ズシテ何ニ由テ裁判公平
中正ナルヲ得ンヤ然ルニ治刑ノ法ニ至テ專証左ニ據ラズ縱令証左ノ
明確ナルアリト雖罪人ノ口供ニ據ルニ非レバ絶テ其罪ヲ定ムベカラ
ズ豈不通ノ習慣法ナラズヤ乃此不通ノ習慣法ヲ永存シテ以テ彼我同

權ノ條約ヲ締立シ我法律ヲ以テ外國自由ノ民ヲ束縛セントス亦難イ
哉不通モ亦太甚シイ哉

或問テ曰ク罪人ノ口供ヲ要セズ專証左ニ據リテ處決シ万一証左誤ル
コアル時ハ奈何曰ク彼ニ於テハ獨民法裁判上ニ於テ所謂控訴法アル
ノミナラズ刑法裁判上ニモ亦控訴法アリ罪人一度處刑ノ行告ヲ受ケ
タル後其罪ニ服セザル所アレハ某々期限内ニ於テ更ニ上等裁判所ニ
控訴スルコトヲ得ベシ是司法官更方一ノ過誤ヲ豫防スル所以ニシテ縱
令証左誤マルコアルモ覆審ニ因テ明白ニスルコトヲ得ベシ然リ而シテ
今我帝國ニ於テ歐米各國ト彼我同權ノ條約ヲ改定シ外國民ノ我國內
ニ居ル者ヲシテ我國法ヲ遵守セシメント欲セバ先ツ拷問ヲ廢スベシ
拷問ヲ廢セント欲セバ先ツ治刑ノ法ヲ改定スベシ蓋歐米各國皆所謂
治罪法アリ今之ヲ折衷シテ我帝國相當ノ治刑條例ヲ定立セシコト恰モ
大寶律ノ唐律ニ倣ラヒ新律綱領ノ唐明清ノ三律ト幕府ノ律例ヲ折衷

セシガ如クセバ何ノ難キヲカ之アラシ
余ガ司法ニ官タルヤ曾テ松本水本清岡ノ諸君ト法朗西治罪法ニ依リ
我帝國ノ治刑法ノ艸案ニ從事シテ頗ル拮据黽勉ス後ニ聞ク余ガ免官
ノ後其事中止スト余儻迂陋拙劣固ヨリ其任ニ耐ズ其事ノ中止スル亦
何ソグ惜ムニ足ラン左院又ハ明法寮中有力ノ議法官其人ニ乏シカラ
ズ竊ニ望ムラクハ諸君更ニ憤發努力シテ速ニ我帝國至當ノ治刑條例
ヲ草定奏上セシト仰願ハクハ我大日本 天皇陛下ノ特詔ヲ垂レテ
斷然拷問ヲ廢シ玉ハンコト豈一大美事ナラズヤ
或曰ク拷問ヲ廢セザレバ彼我同權ノ條約ヲ結ブベカラズ又外國民ノ
我國ニ居ル者ヲシテ我法律ノ下ニ置クベカラザルコトハ既ニ命ヲ聞ク
然レモ拷問ヲ廢セズンハ遂ニ歐米各國ト車ヲ並ベテ馳騁スベカラズ
ト謂ヘルハ解スベカラズ抑我帝國ノ歐米各國ト拮抗スベキハ專ラ人
民ノ文化ト政府ノ兵力ニ關スルコトニテ拷問ノ有亡ニ係ハルコトナシ曰

ク人民ノ文化果シテ上進スレバ拷問等ノ惡法跡ヲ竄シテ我帝國ヲ逸去セシテ論ヲ埃タズ縱令兵力今ヨリ數層ヲ加フモ野ヲ轉シテ文ト爲サズ猶拷問等ノ惡法ヲ墨守シテ移ラザル時ハ歐米各國ト車ヲ並ベテ馳騁セント欲スト雖彼豈之ヲ首肯センヤ

或又曰ク只管証左ニ由テ人ヲ罪スルニ於テ若シ証左ヲ缺ク時ハ罪人
或ハ僥倖ニシテ刑ヲ免ル可ナラン乎曰ク余之ヲ歐州ノ法律家ニ聞ケ
リ曰ク縱令百罪人ノ僥倖ニシテ罪ヲ免ル、者アリトモ一無辜ヲ罪ス
ルコト勿レト又古ノ支那人ノ曰ク其不辜ヲ殺サンヨリハ寧ロ無經ニ失
セヨト嗚呼今ノ日本人ニシテ古ノ支那人ニ如ズ余儂豈愧ヂザルベケ
ンヤ且今我國拷問ノ法アリ子豈罪人ノ僥倖ニシテ罪ヲ免ル、者絶テ
無シト思フ歟亦思ハザルノ甚シキナリ

○眞爲政者ノ説

杉 亨二

何チカ眞爲政者ト云フ曰平時ニハ國家ヲシテ愈々隆盛ナラシムルコト

謀圖シ變時ニハ國家ノ禍難ヲ緩ニシ覆滅ヲ救ヒ之ヲシテ平安ナラシムルノ天賦才徳ヲ具スル者即是ナリ夫眞爲政者ハ内外ノ歴史ヲ詳カニシ殊ニ自國ノ實錄ヲ諳シテ以テ練磨ノ功ヲ積ミ智識ヲ明カニシ惟之ヲ書上ニ熟スルノミナラス又更ニ之ヲ實際ニ徵シ以テ民情ニ通シ事實ニ達シ人世ノ真理ヲ究メ國家ヲ經綸スルノ道ヲ得其利害ノ起ル所得失ノ由ル所ヲ察シ又外交ニ於テハ他邦ノ民情及ヒ之ヲ統治スル所ノ制度ヲ知リ以テ我國人ノ安榮幸福ニ至ル可キ目的ヲ定メ其方法ヲ立テ之ヲ施行シテ物論抗議ナク國家ノ利用ヲ興シ而シ地球ノ英主名相ト共ニ國事ヲ處シ常ニ彼君相ノ好向持論ノアル所ヲ察知シテ皆之ヲ己ノ胸中ニ藏メ以テ我國家ノ利益ヲ圖リ又彼威名ヲ好ニ盛勢ヲ求ムルノ心情ヲ洞察シ其覬覦ノ念ヲ未萌ニ芟除ス若シソレ我勢力ヲ以テ之ヲ抗拒スルヲ能ハサルヲ知レハ則チ才畧以テ之ニ應シ睿智以テ其鋒ヲ挫キ其將來ノ謀圖ヲ看破シ我カ眼力ノ光芒ニ辟易セシム

而メ我立ツル所ノ制ハ必ス先ツ其功ノ成ル所ヲ知リテ其利益ノ興ル所ヲ期ス此ノ如クシテ國体ヲ創立シ國家ノ後榮ヲ發セシム此ノ如クシテ敵國常ニ此人ヲ懾怖シ其銳意ヲ逞フスルヲ得サラシメ又彼術中ニ陷ラス深ク我機密ヲ匿シテ反テ彼胸算ヲ探知シ而メ我智ノ致ス所識ノ達スル所實ニ鐵城ニヒトシウシテ敵ノ百矢ノ我國ニ向フモノヲ干禦スルカ如ク然リ我レ其施設スル所ノ方法皆善ク邦人ノ幸福ヲ致スナリ國家危難ノ際ニ方リテハ言ハ以テ邦人ヲ安撫シ行ハ以テ邦人ノ意ヲ強フス又危急愈迫ルニ及ンテハ百方防禦ノ術ヲ盡シテ外寇ニ備ヘ我國威ヲシテ益振ハシム邦人ノ此人ヲ見ルヲ恰モ菩薩ノ如ク之ヲ譬フルニ船ヲ大洋ニ航シテ颶ニ遇ヒ其疾風怒濤ヲ截テ之ヲ平水ニ致シ或ハ港ニ走リテ以テ之ヲ安全ナラシムルノ妙術ニ通スル者ニ似タリ噫眞爲政者タルヲ抑モ亦難ヒ哉

○西學一斑

中村正直譯

希臘羅馬ノ盛ンナリシ時學士文人多ク世ニ出テ著書多カリケルガ此

時未ダ印板ノ書ナカリシユヘ後世ニ至リ存スルモノ甚少シ然レドモ

ソノ殘闕ノ中ニ真理トルス及ビ學術サインスノ散見スルコト星火ノ如ク後世ニ至リソ

ノ火ヨリ蔓延シテ至大至明ノ火トナリニケリ往時ノ學者ソノ論スル

トコロ大抵億度想像ノ見ニシテタチマチ乍見レハ無用ニ似タリシカレドモ今

日學問ノ端緒トナルコトナレハ陰ニソノ益ヲ受ルコト大ナリトイフベシ

○第十二回百年ノ間一千一百一年ヨリ一千二百年ニ至ルマデ即チ康

末南宋ノ始ナリ和三年ヨリ正治二年ニ至ルマデ間漢土北宋ノ

羅馬律法ノ學問大ニ天下ニ行ハレ人ノ見識ヲ廣メ人ノ思索ヲ彊クセ

シメタリコノ時人民神像ヲ奉シ五里霧中ニ在ルガユヘコノ律法ノ學

ソノ說未ダ堅固ナラズシカレドモヨリ人智ノ光リ暗中ニ發シ

國政ノ學人倫ノ學次第ニ萌發セリ今世教ユルトコロノリベラルボリ

チクス寬弘之政學ト譯ス人主苛法ヲ以テ羈束セズ人民ノ公共ノ情ニ

ビユーア。○エチツクス。純粹ノ倫常學ト譯ス外面ノ行義ノミニアラズモ
中心ヲ虔誠ニシ善徳ヲ修行セシムル教ナリ

ソノ源チ是ニ發セリ○一派ノ學アリテナチユラルヂユリスプロデソ

猶曰天然ト稱スルモノ格羅丟斯コレヲ創メタリソノ後一百五十年
的律法ト稱スルモノ格羅丟斯コレヲ創メタリソノ後一百五十年

間歐洲ノ學者コレニ從事シタリキマタ後世ニ益ナシトイフベカラス

一千四百四十一年我嘉吉元年印書ノ事始マリタルヲ實ニ古今學變ノ一大

鴻溝トイフベシ今吾輩嬰兒ノ時ヨリ印本ヲ讀ムヲナレバコノ事ナカ

リシトキイカ程カ不便ナリシトイフヲ想像セラレヌナリ印書ノ事

始マリタルヨリシテ歐洲諸國ノ人簡便ニ書ヲ讀ムヲ得タリコレニ

ヨリ路暢ルイサアノ如キモノ經典ヲ熟讀シ羅馬法王ノ教ユルトコロ上帝ノ眞

理ニ悖ルヲ知リツイニレホルメーシヨントイヘル革新ノ上帝教ト

名ヅケタル一派ヲ創メタリコレニ嗣テ歐洲諸國ニテ各々ソノ國ノ語

言ヲ以テ經典ヲ譯セシカバマス。羅馬法王ノ權勢衰へテ人民次第ニ

革新ノ上帝教ニ赴キケリ英國ニ於テハコノ新教ノ始マリシハ一千五

百四十七年ノ事ナリ

天文十九年即チ我邦ニポルトガルノ人羅コノ革馬教ヲ傳ヘ始メシハ凡ソコノ時ノ事ナリ

新ノ上帝教興リテヨリ人民教法ノ事ニ於テ他人ノ管轄強迫ヲ受ザル

ノミナラズ理學ニ於テモ古人ノ軌轍ヲ守ラズ温故知新ノ功ヲ積ム

チ勉メタレバエラスミユス、リユドヴイキユス、ヴハイヴス、サアトマス、

モール、ノ如キ大豪傑世ニ出タリソノ學問見識實ニ前人ノ及バザルト

コロニシテ路暢ト鴈行スベシ亞里斯土的列ノ理學ノ如キ昔ヨリ鐵案

トナシ相傳ヘテ墨守セルモノ路暢コレヲ藐シカロン詆リテ亞氏ノ學上帝教

ニ於テ益ナキノミニアラズナチユラルフイロソヒ一天地間格ニ於テ

モ亦無用ニ屬ストイヘリ○印本ノ發明ハ人智開明ノ原由ナリソノ他

歐洲卑賤ノ民ソノ志力ヲ伸ルヲ得タルニヨリテ學識上進セリコレ

半ハ通商繁盛ニシテ貨財多ク殖スルニ由リ半ハ貴爵ノ人勢力衰減セ

ルユヘニ平民コレカ爲ニ壓制ヲ受ケズシテ各々ソノ志ヲ行フヲ得

ルニ由リ人々學問ヲ好ミ智識ヲ廣ムル風俗ト成リテマタコレヲ學フ

間暇アルヲ得タレバコレヨリシテ有用ノ學次第ニ興起シ謬誤ノ說
漸々ニ止ミニケリ

コ、ニ學問一變シ謬誤ノ說ヤミ已テ眞實ノ學アラハレ出タルハ種々ノ才

識アル諸人エツキスペーリメンタルインクワイリース試験トイヘル

實事實物ニツイテタシカニコレヲ經驗シ親試シテ始メテソノ然ルチ

知ル學問ヲ務メタルニ由レドコノ種ノ學派ハ前人ノ夢ニモ見ザルト

コロナコレガ元祖トナルモノハパラセルシユスナリ一千四百九十

三年ニ生ル路ワカ暢ヨリ少サカキヲ十歳ナリシカレヒパラセルシユスヨク草

木鳥獸金石ノ類ヲ考究シマタ舍密分離ニ於テ多ク經驗セシカドモ未

タ足ラザルトコロアリロルト倍根ベイコンニ至リテ始テ實驗ノ學ノ基礎立タ

リケリ

其他學術ノ益々開ケタルユエアメリカンハ新洲ノ發見ト喜望峯ヨリ印慶ニ至

ル路ノ發見ニヨレリコレニヨリテ南方ノ產物極北ノ人コレヲ用フル

チ得又極北ノ人製造スルトコロノ物南國ニ輸出シ西方ノ人東方ノ物
チ以テ衣服トナスソノ他風俗議論法律疾病醫藥善德惡行等東西南北
互ニ相交通シ相資益シ相鑒戒スルコトコソ大ニ人智ノ日ニ關ケ學問ノ
大ニ進ムユエソナリ

評本文ニヨレバ天下學問ノ進ム所以ハ第一ニ印本ノ事始マリテ新
教興リ人々法教ノ書ヲ讀ムニ由ル第二ハ卑賤ノ民漸々自由ノ權ヲ
得テ學者多ク出ルニ由ル第三ハ親試實驗ノ學起ルニ由ル第四ハ四
海交通彼此來往スルニ由ルコソニヨリ睡夢ノ忽チ醒ルガ如ク人智
大ニ關ケタルナリ

以下次号ニ載ス

○質疑一則

阪谷 素

素也愚ナリト雖モ胸中城府ヲ設ケ偏見自重スル事ヲ鄙ム故ニ魯鈍
ニシテ歐文ヲ解セザルモ亦歐學ノ人ヲ好ミ歐漢一致公平ニシテ實

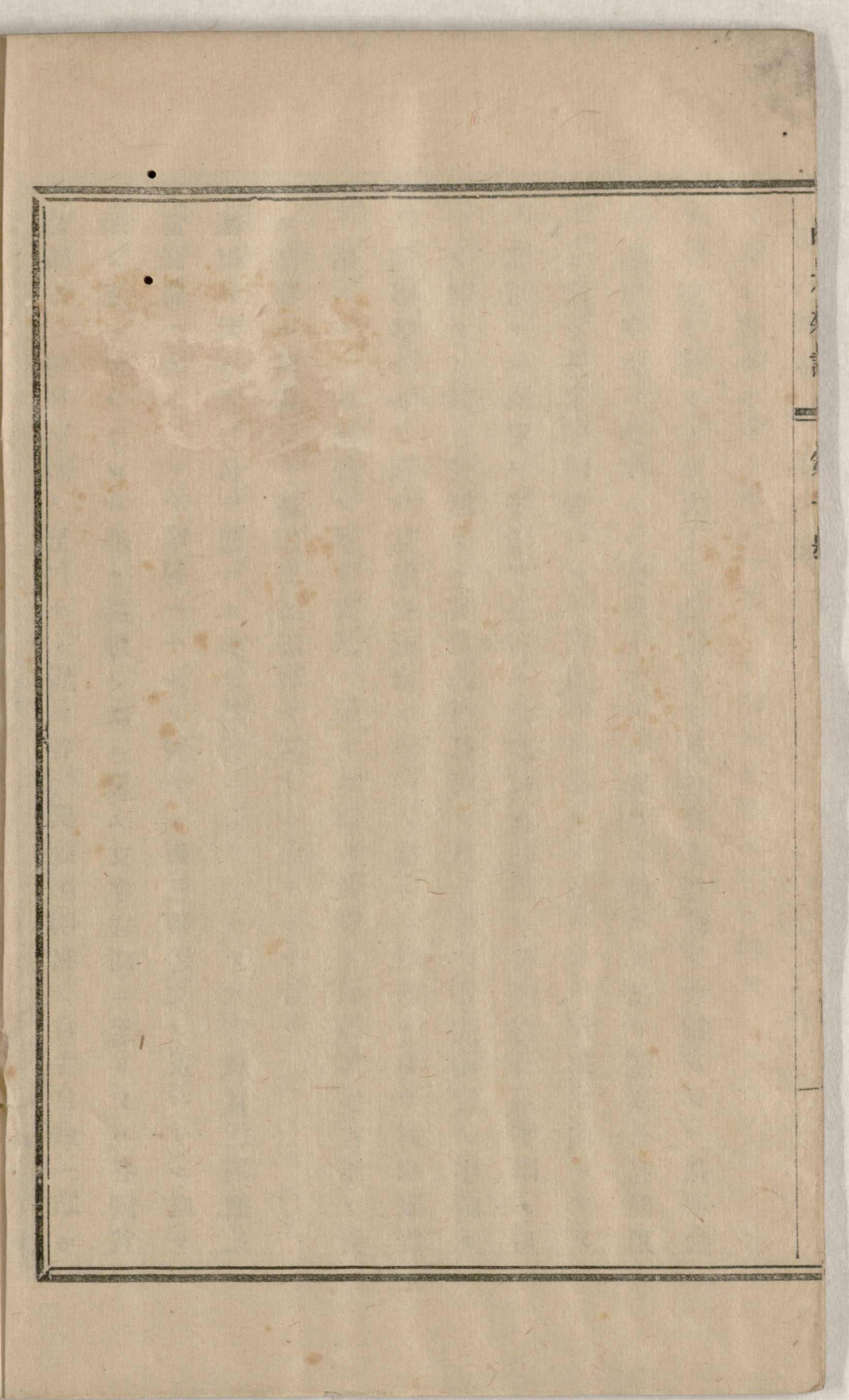
地ニ歸セシヲ欲ス近日諸先生明六社ヲ開クヲ聞キ欣然請テ聽客ノ末ニ加リ得益多シ然ルニ疑ノ多キ一々口問セバ談話ヲ妨ルヲ恐ル仍テ時ニ筆録シテ辨正ヲ乞フ諸先生唾餘ノ片言ヲ惜ザル幸甚

日本文字言語改定ノ說先年來文部省及世上諸君子紛々立論諸新聞紙中毎ニ見受タリ近日尊社雜誌西西村二先生清水君ノ說亦反覆此ニ及ブ小子多年此說ヲ聞スル毎ニ皆其心ヲ用フルノ深ク其言ノ各一理アルニ服ス然レ實地ニ於テ行ヒ難ク或百年ノ後ヲ期スルモ交際ノ國各殊ニシテ英佛ニハ英佛ノ言語文字ヲ用ヒザルヲ得ズ魯西亞獨逸ニハ魯西亞獨逸ノ文字言語ヲ用ヒザルヲ得ズ支那朝鮮ニハ支那朝鮮ノ文字言語ヲ用ヒザルヲ得ズ一ニ順ヘバ一ニ逆ヒ一ニ便ナレバ一ニ不便ナリ各國ノ於我亦然リ既ニ皆用ヒザルヲ得ザレバ勉強努力シテ習學セザルヲ得ズ嗚呼實用ノ道豈ニ文字言語ノ異同ニアラシヤ而其異同ニヨリ多少ノ精神光陰ヲ消費ス實ニ五大洲中開化ヲ妨クルモ亦大ナ

リ豈ニ可歎ノ甚ニ非スヤ然則如何曰萬國文字言語チ一ニセソ而已夫
 天地ノ間同ニ同ノ妙アリ人各善惡チ善惡トシ利害チ利害トスル如ノ
 類是也異ニ異ノ妙アリ此器物彼器物ト形質チ異ニシ以テ万用ニ應シ
 我父母妻子彼父母妻子ト顔面チ別ニシ混亂ノ害ナキ如キ是也獨文字
 言語ニ至リテハ人々其辭チ殊ニシ其聲音チ別ニスレバ之チ同一ニス
 ル無害シテ唯有利ノミ其便ニシテ學問交際ノ益ヲ爲ス實ニ宏大ナリ
 今唯我國內ノミチ同一ニセソトスル事行レ難ク礙リモ亦多シ宜ク其
 說チ大ニシ万国混同ノ策チ立ツベシ其策チ立ツイカン曰ク万国普通
 ノ公理ニヨリ各國合議論定スル而已然レ其事ノ大ニシテ難ヤ歐米文
 明ノ國モイマダ此案ニ及バズ今明六社首唱ノ旗鼓チ建テ每會其規則
 次序チ討論シテ各國文字言語ノ長チ取リ短チ舍テ混一ニ歸スルノ基
 本チ開キ各國ニ咨詢シ勉強耐忍百折不撓天地間同文同語ノ大益チ成
 ス豈萬古ノ大愉快ニ非ズヤ嘗聞ク歐洲賢哲戰鬥チ廢スルノ議アリト

是曠古ノ美事萬國ノ至仁ナリ然レ各國眞誠開明私ノ自主自由一點モ
無ノ度ニ至ラザレバ恐ク無用ノ談ニ屬ス文字言語ニ至リテハ各國貧
富強弱ニ關セズシテ唯同一ナルノ利アル而已而造化ノ及バザル處ヲ
輔相シ天地間開化ヲ速ニス未ダ其度ニ至ラズシテ大言無當迂濶無比
モ其理ハ確然タリ諸先生其端緒ヲ開クニ意ナキヤ否ヤ

案ズルニ此說行レ難キ支那ヲ最トス然レ彼固リ漢滿文字言語ノ異
同夥多ナルヲ厭フ且近來歐米ヲ學ベバ更ニ一煩雜ヲ加フ到底服從
ノ理アリ因テ又思フニ其初公用私用ノ別ヲ立テ各國舊習ノ字語ヲ
私用トシ新定ノ字語ヲ公用トシ著書及交際ノ簡牘必公用字語ヲ用
ヒ漸々公用字語盛ニシテ私用字語衰フル様ニセバ何如如此ニシテ
公用字語ハ魯漢トカ英佛トカーニ歸スル歸スル所ノ國獨公私同用
ノ益ヲ受クルモ天下ノ公議ナリ又各交際學問ノ大益タレバ是不論
シテ可ナラン



稟 白

一代價ハ每号不同に付豫め決定仕兼候得共前金にて發兌號方先二十冊分御引受ハ一割引五十冊分ハ一割半百冊分ハ二割引にて差上過不足ハ追て辨當の上可申上候

一府下にて御望の方ハ町所名前御投書次第發兌毎に配達可仕遠國ハ府下にて御引受の御方より前金郵便税共受取不申内ハ遞送不仕候

明治七年三月

賣捌所 報 知 社

東京藥研堀町

東京日本橋釘店

取次所 和泉屋壯造

P20508

05 •
ME.25 •
2

~~10699~~

木内